

<多機能型事業所：生活介護/就労継続 B 型>

多機能型事業所 童里夢

令和 5 年度 事業報告書

《令和 5 年度の経過と評価》

令和 5 年度は、チーム力、協力体制を整え安定した体制、運営を目指してきた。しかし、年度途中での離職者により支援体制の不安定な状況は 4 年度同様であり、人員の確保に努めた。入職してすぐに現場での作業、支援と受入時の体制が整っていなかった。そのため、入職時には研修制度の導入をすることで法人、事業所を知っていただき、支援に関して理解を深めていただく研修をとり入れた。

職員間の情報共有不足を補うために作業班携帯での LINE による予定伝達を行っていたが伝達不足も伺えた。その為、全職員参加のグループ LINE に予定伝達を行い情報共有できるように整えたが職員の動きが主になっており、情報、内容不足と課題も多かった。毎月の班会議、支援会議、職員会議等では報告、確認の場となっており、支援や運営に関しての深堀、検討する場として徐々にではあるがかたちをかえつつある。

法人内全体での支援体制、事業所間の兼務職員の協力体制をとることができたが兼務することで勤務時間、出勤、退勤時間の違いによっての事業所内での人員調整、職員不足による調整等課題も見えた。

地域との関わりでは 8 月に夏祭（太鼓クラブ披露・販売）、11 月には校区文化祭（太鼓クラブ、ダンスクラブ披露・絵画クラブ作品展示・販売）と参加、協力することができた。外部販売、バザー等への積極的な販売活動を奏楽と情報共有して販売協力して進めることができた。

事業運営では新卒者が生活介護 2 名、就労継続 B 型 1 名加わった。しかし、生活介護で新たな生活の変化、作業とのマッチングとまでいかず 1 カ月余りで退所してしまった。その後も 1 名引越しによる退所、定員に満たしていない事で見学、実習と受け入れてきた。12 月には 1 名生活介護での利用開始となった。年度初めには学校訪問をして実習の受け入れ、生徒の動向をうかがったが新卒へつながるものではなかったがその後の動きで体験へとつながることを確認できた。

【ばくばくぱん】

職員体制が変わり製造面での不安が大きかったが技術の習得に時間がかかったが成型、焼成等順調に伝わっていた。このような状態と兼務での職員のいない時間帯もあり店舗営業日の減少になってしまったが売り上げを落とすこともなかった。

外部販売では、コインランドリーコスモ販売が毎月 1 回定期的に行われた。また販売活動では奏楽と協力して進めることもできた。今までロスしていたパンをラスク製造へと奏楽と共同で検討をして商品化、売り上げに繋げている。

利用者支援では製造がメインになり利用者工賃を落とさない、売り上げを気にしすぎてしまい十分な支援ができていたとは言えない。作業の固定化、口頭で伝えることだけでなく新しい作業への挑戦、わかりやすい伝え方等落ち着いて作業できる環境を整える。

【れすとらん班】

周年イベントを始めとして季節限定メニュー、デザートの実、そして高価格帯の釜めし提供したところ予想以上に反響があった。また、セットメニューから単品メニューへとお客様の声を反映してメニュー変更も行い集客は徐々に伸びてきた。メニューの変更に伴い、客単価が低くなり売り上げが思うように伸びていなかった。集客に向けてイベントの開催、他施設との協力を行った。8月には浜松の施設と共同企画で水族館のイベントを行い盛況であった。また、障がい者アートにも力を入れ、岡崎や名古屋の施設とも関わりができて作品展示を行い、愛知県障がい者芸術文化活動支援事業の一環として愛知アールブリュット加盟店となった。活動やイベントの情報発信としてSNSの活用し、今後も営業活動については、認知、集客の向上に継続して検討して利益を上げていけるようにしていかなければならない。

利用者支援では、関わる部分を丁寧な説明をして、時には作業の細分化をして役割を意識してやりがいをもって作業に取り組むよう行った。時に不安定になった利用者、またその周辺にいる利用者に対して安全を確保しながら落ち着けるよう支援していたが突発的な時には対応しきれないこともあり作業をしながらも広い視野、また利用者の状態把握等対応していけるようにしていくことが求められる。

給食提供についてはグループホームへの夕食提供、その後すたあと短期入所時の夕食提供の実施し、メニューの相談等考慮し栄養バランスを考えた上で継続して取り組んでいく。

【雑貨班】

エサ用コオロギの販売では赤塚山公園への定期的取引の継続、またYouTubeやSNSの活用により少しずつ個人客への販売が伸びている。委託作業では職員負担が大きいこと、利用者支援に影響があり、作業種目の検討を進め委託作業の削減し売り上げへの影響は大きかった。農作業、果樹に加え、原木しいたけを準備に取り掛かり利用者のかかわりを大切に考え実施できた。生産活動以外でも健康延伸活動の取り組みで健康維持、体重の減少となる近隣の石巻山への体力づくりを継続していく。

雑貨職員が兼務をしている方、また送迎へ出てしまう事で職員配置が手薄になってしまいうことがないように確認し職員体制を整えた。入職しても安定しない職員体制であったため受け入れ態勢を含め事業所の課題となってしまった。

【Pan-Kan 製造センター】

コロナ禍では自宅療養者の食料として採用されたが5年度は商社からの取引中心となった。このため、売り上げは軒並み低迷してしまっていたが年度末の繁忙期には注文に対応できる体制を作り取り組むことができた。物価高騰の影響で材料が軒並み価格上がり、製造コスト等意識を高め資材、業者の選定も行った。このような状況もありながら取引業者との関係を広く持ち情報を集めてきた。

《重点課題に対する取り組み》

1. 運営基盤の強化（運営・管理体制・サービス管理）

管理者会議で事業所間の連絡調整、課題確認・検討を中心に協調体制づくりを行った。また、日中活動事業所の童里夢、奏楽での業務の連携、確認を行う事で童里夢運営の課題は多いが、協調体制をとることができた。すたあと、ばあとなあでの兼務職員の配置、支援体制等業務連携、協調体制をとり調整を繰り返しながら働きやすい環境を作ってく。職員体制では年度途中で退職者がいたことで日々の職員配置、作業設定と負担感が大きくなってしまった。安定した職員体制であるためには入職時の受け入れを現場だけでなく、法人、事業所での対応をしっかりとしたうえで進めていかなければならない。生活介護では利用定員に満たしていないので見学者、実習を受け入れ定員充足に努めた。生活介護在籍 27 名と定員に達していないことで今後も見学者を積極的に受け入れ、丁寧な説明と定員充足に努めていく。

2. 利用者サービスの拡充

生産活動では離職者がいたこともあり支援体制が整わず職員の負担感が増し生産活動と利用者支援のバランスが崩れてしまうことがあった。また、思うように売り上げも伸びず特別工賃が出せない状況にもなり、6年度の工賃見直し検討を行うこととなった。生産活動を基本としてできることだけでなく作業の細分化することで関わりを持ち、貢献している達成感、地震へとつなげていけるよう取り組みを進めている。行事も通常にほぼ近い状態で行われた。地域と交流のある石巻校区文化祭、童里夢一泊旅行と実施できた。法人全体での忘年会についても事業所間のオンラインから会場が限定されてしまったがボーリング大会を開催し楽しめる機会となった。利用者自治会を通し活動内容等についてニーズを引き出し計画、実施していきたい。

3. 人材育成/支援力の向上

職員体制、現場での職員負担を意識するあまり研修の積極的参加が困難であった。しかし新人職員には権利擁護、虐待防止研修に参加、長年勤めている職員は自己流になりがちで事業所外研修の必要性を感じた。福祉専門職として役割、責任と理解を自覚し利用者支援において意識を養い高められるよう事業所外部研修に今まで以上に参加を促していきたい。また事業所内会議（班会議、支援会議、職員会議）の仕組みづくり、内容の検討を行ってきた。

【障害支援区分別人数】

生活介護

性別	区分 6	区分 5	区分 4	区分 3	区分 2	区分 1	非該当	合計	平均区分
男性	3	7	5	0	-	-	-	15	
女性	1	4	7	0	-	-	-	12	
合計	4	11	12	0	0	0	0	27	4.7

就労継続支援 B 型

性別	区分 6	区分 5	区分 4	区分 3	区分 2	区分 1	非該当	合計	平均区分
男性	0	0	5	3	0	0	0	8	
女性	0	0	1	1	0	1	1	3	
合計	0	0	6	4	0	1	1	12	3.4

【年齢別人数】

生活介護

性別	20歳未満	20-25	26-29	30-39	40-49	50-59	合計
男性	0	2	1	4	6	1	14
女性	1	1	1	2	6	2	13
合計	0	3	3	5	11	4	27

性別	平均年齢	最低年齢	最高年齢
男性	38歳 2ヶ月	24歳 0ヶ月	53歳 6ヶ月
女性	37歳 5ヶ月	19歳 7ヶ月	51歳 10ヶ月

就労継続支援 B 型

性別	20歳未満	20-25	26-29	30-39	40-49	50-59	60-69	合計
男性	0	0	0	6	1	0	1	8
女性	1	0	2	0	1	0	0	4
合計	0	0	2	6	2	0	1	12

性別	平均年齢	最低年齢	最高年齢
男性	40歳 6ヵ月	31歳 1ヶ月	66歳 11ヶ月
女性	29歳 9ヶ月	19歳 8ヶ月	41歳 5ヶ月

【生産活動 売上金額】

生活介護

月	ばくばくぱん	れすとらん くらう	雑貨班	計 (円)
4	375,035	239,420	139,611	754,066
5	301,351	303,650	96,462	701,463
6	384,944	329,500	63,542	777,986
7	330,014	222,820	69,541	622,375
8	347,248	452,300	67,478	867,026
9	359,390	281,270	60,774	701,434
10	550,230	320,130	73,543	943,903
11	619,913	360,370	68,710	1,048,993
12	910,155	288,600	52,876	1,251,631
1	287,442	226,000	39,315	552,757
2	364,362	302,750	55,862	722,974
3	496,498	390,620	63,712	950,830
計	5,326,582	3,717,430	851,426	9,895,438

就労継続 B 型

月	Pan-Kan 製造センター
4	1,067,260
5	2,536,977
6	2,402,318
7	1,764,379
8	1,092,380
9	3,336,227
10	3,241,643
11	1,586,947
12	1,899,022
1	2,624,454
2	8,598,649
3	5,758,655
計	35,908,911

【原材料費率＝原材料費／売上金】

	ばくばくぱん	れすとらん くらう	雑貨班	Pan-Kan 製造センター
売上	5,326,582	3,717,430	851,426	35,908,911
原材料	1,553,314	1,508,131	227,480	15,729,003
比率	29.1%	40.5%	26.7%	43.8%